

相続の家系図問題（問題編）～民法[31]より

■第1問■平成01年問11

Xは、9,000万円の遺産を残して死亡した。Xには、配偶者YとYとの間の子Aがいる。XとYとの間には、Aのほかに子Bもいたが、BはX死亡の前に既に死亡しており、その子bが残されている。さらに、Xには、非嫡出子Cもいる。また、Aには子aがおり、AはX死亡後直ちに相続を放棄した。この場合の民法の規定に基づく法定相続分に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 Yが6,000万円、Cが3,000万円の相続分を取得する。
- 2 Yが4,500万円、bが4,500万円の相続分を取得する。
- 3 Yが4,500万円、bが2,250万円、Cが2,250万円の相続分を取得する。
- 4 Yが4,500万円、aが1,800万円、bが1,800万円、Cが900万円の相続分を取得する。

■第2問■令和03年10月問09

Aには死亡した夫Bとの間に子Cがおり、Dには離婚した前妻Eとの間に子F及び子Gがいる。Fの親権はEが有し、Gの親権はDが有している。AとDが婚姻した後にDが死亡した場合における法定相続分として、民法の規定によれば、正しいものはどれか。

- 1 Aが2分の1、Fが4分の1、Gが4分の1
- 2 Aが2分の1、Cが6分の1、Fが6分の1、Gが6分の1
- 3 Aが2分の1、Gが2分の1
- 4 Aが2分の1、Cが4分の1、Gが4分の1

■第3問■平成 29 年間 09

1 億 2,000 万円の財産を有する A が死亡した。A には、配偶者はなく、子 B、C、D がおり、B には子 E が、C には子 F がいる。B は相続を放棄した。また、C は生前の A を強迫して遺言作成を妨害したため、相続人となることができない。この場合における法定相続分に関する次の記述のうち、民法の規定によれば、正しいものはどれか。

- 1 D が 4,000 万円、E が 4,000 万円、F が 4,000 万円となる。
- 2 D が 1 億 2,000 万円となる。
- 3 D が 6,000 万円、F が 6,000 万円となる。
- 4 D が 6,000 万円、E が 6,000 万円となる。

■第4問■令和 02 年 12 月問 08

1 億 2,000 万円の財産を有する A が死亡した場合の法定相続分についての次の記述のうち、民法の規定によれば、正しいものの組み合わせはどれか。

- ア A の長男の子 B 及び C、A の次男の子 D のみが相続人になる場合の法定相続分は、それぞれ 4,000 万円である。
 - イ A の長男の子 B 及び C、A の次男の子 D のみが相続人になる場合の法定相続分は、B 及び C がそれぞれ 3,000 万円、D が 6,000 万円である。
 - ウ A の父方の祖父母 E 及び F、A の母方の祖母 G のみが相続人になる場合の法定相続分は、それぞれ 4,000 万円である。
 - エ A の父方の祖父母 E 及び F、A の母方の祖母 G のみが相続人になる場合の法定相続分は、E 及び F がそれぞれ 3,000 万円、G が 6,000 万円である。
- 1 ア、ウ
 - 2 ア、エ
 - 3 イ、ウ
 - 4 イ、エ

■第5問■平成 26 年問 10

Aには、父のみを同じくする兄Bと、両親を同じくする弟C及び弟Dがいたが、C及びDは、Aより先に死亡した。Aの両親は既に死亡しており、Aには内縁の妻Eがいるが、子はいない。Cには子F及び子Gが、Dには子Hがいる。Aが、遺言を残さずに死亡した場合の相続財産の法定相続分として、民法の規定によれば、正しいものはどれか。

- 1 Eが2分の1、Bが6分の1、Fが9分の1、Gが9分の1、Hが9分の1である。
- 2 Bが3分の1、Fが9分の2、Gが9分の2、Hが9分の2である。
- 3 Bが5分の1、Fが5分の1、Gが5分の1、Hが5分の2である。
- 4 Bが5分の1、Fが15分の4、Gが15分の4、Hが15分の4である。

正解一覧

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
3	1	3	3	3